



## 第49回堺まつり

2022年10月15日（土）～16日（日）

【三年ぶりに堺にまつりが戻ってきました】

今年令和4年10月15日に待ちに待った堺まつりが復活しました。仙台からも伊達の舞さんが駆けつけ、本場のすずめ踊りをご披露いただきました。

15日の夜行われた、仙台・堺交流会の席上、仙台の山口头は、「今年、3年ぶりに堺に帰ってきました。仙台の青葉まつりも堺まつりもやっと復活しました。

でも、まだまだ完全復活ではありません。これから以前のような輝きを取り戻せるまで、すずめっ子は頑張ります。仙台も堺も手を取り合って、一緒に踊り続けましょう」と涙ながらに訴えておられました。

ナイス連では5月の仙台青葉まつりの時と同じくナイス連単独での出場はせず、堺の元協賛会チームとの合同チームで出場しました。

今、すずめ踊りを踊りたくてもチームが解散したり、メンバーが揃わず自分達だけではすずめ踊りを踊れない仲間が堺にはいます。

ナイス連は「自分だけではなく、周りの人にも喜んでもらう」と言う川辺ドクトリンに基づいて合同チームでの参加を選びました。堺を元気にしたい、それがナイス連の活動目的です。



## サーバント型リーダーシップのナイス連、誕生！

実はとても嬉しいことがありました。それは前夜の交流会のこと。交流会を企画運営したのは勇舞雀の松村さんです。旧協賛会の奥野会長や、北側先生に声かけしてALL堺で仙台伊達の舞チームを迎えたい。そんな思いに感じた仲間が多く集まりました。まるで昔の協賛会が蘇ったかのような賑わいでした。会も終盤、いよいよ明日に備えて中締めと締めの挨拶が行われました。もちろん仙台的挨拶は連盟のトップである山口頭です。仙台締めの後、司会の松村さんが、堺の仲間を代表して大阪締めの音頭を指名をしたのがナイス連の川辺代表でした。雀組はじめ響さんや昔の協賛会で理事をしていたチーム代表もいる中、協賛会では理事ではなかったナイス連が堺を代表して大阪締めの音頭を取る。

この松村さんの仕切りはごく自然で、会場のみんが納得するものでした。

結成以来17年、ずっと笑顔のチームを率いてきた川辺さんは「異端者」扱いされた時もありました。協賛会の中の勢力図も二転三転、いろいろ変わってきました。でもその中で変わらないものがナイス連の立ち位置だったのかもしれない。笑顔を届けること。愚直にその活動を続けた17年。

今や堺の中で誰もが認めるすすめ踊りの代表的なチームとなったことを感じました。

3年ぶりの堺まつりの復活と、山口頭の情熱に盛り上がった交流会は川辺さんの大阪締めで幕を閉じました。席上でもナイス連の持続性や成長に多くの方が質問をしていたようです。みんなが不思議に感じるナイス連というチーム力の秘密。これは川辺さんのサーバント型リーダーシップにあるのかもしれない。時代を先取りしたこのリーダーシップは過去には誤解も招きましたが、今は多くの組織が導入する優れたモデルになりました。ナイス連のサーバント型リーダーシップが異端者でなくなった日。それが、今年の堺まつり交流会でした。



次世代につなごう、感謝・笑顔・ありがとうございますのこころ

